WORLD FEDERALIST MOVEMENT OF JAPAN
世界連邦
NEWSLETTER
2025 年 5 月 28 日　　第 689

国会委員会がグローバル・リーダーズ “The Elders” と意見交換会

世界連邦日本国会委員会は 2025 年 5 月 15 日午前 11 時より衆議院第一議員会館の特別室においてグローバルリーダーズ “The Elders” との意見交換会を開催した。

The Elders は、2007 年にネルソン・マンデラ南アフリカ元大統領によって設立され、本部をロンドンに置き、平和・正義・人権・持続可能な地球のために活動する独立有識者グループである。

今回の会合では The Elders から以下の 5 名が参加した。

フアン・マヌエル・サントス/Juan Manuel Santos　元コロンビア大統領・ノーベル平和賞受賞

財務、通商、国防の大臣を経た後、2010 年から 2018 年までコロンビア大統領を務め、2012 年に開始した左翼ゲリラの FARC(コロンビア革命軍)との和平交渉をまとめ上げて 52 年に及ぶ内戦を終結させ、2016 年にノーベル平和賞を受賞した。環境保護や生物多様性保護でも先駆的な取り組みを進め、大統領在任中に海洋保護区を 10 倍以上に拡大した。退任後の 2019 年に The Elders に参加、2024 年 11 月に議長に就任。対話による平和と和解や気候危機への国際的提言を主導している 。

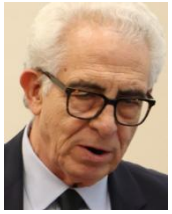
潘基文(パンギムン)/Ban Ki-moon　元国連事務総長

2004 年から 2006 年まで韓国外相を務めた後、2007 年に第 8 代国連事務総長に就任。在任中は SDGs 策定や UN Women 創設など気候変動対策・持続可能な開発・ジェンダー平等を推進し、国連改革で透明性と効率性を高めた。退任後は Ban Ki-moon Centre 設立や The Elders 副議長として気候・持続可能な開発・ジェンダー平等の世界的提唱者として活動を続けている。

ツァヒアギーン・エルベグドルジ/ Tsakhiagiin Elbegdorj　元モンゴル大統領

1998 年と 2004 年から 2006 年にモンゴル国首相を務め、その後 2009 年～2017 年には第 4 代モンゴル国大統領を務めた。この間ソビエト連邦崩壊後のモンゴル国民主化を主導。1990 年にモンゴル国初の民主制憲法を起草。2016 年にはモンゴル国での死刑制度を廃止した。2022 年に The Elders に参加、現在も核兵器廃絶・不拡散、民主主義、気候変動の国際的提唱者として活動。

エルネスト・セディージョ/Ernesto Zedillo　元メキシコ大統領



1994 年から 2000 年にかけてメキシコ大統領を務め、メキシコの民主化を推し進め、法の支配を徹底させ、財政健全化においても大きな成果を残した。2002 年「FDR フリーダム・フロム・フィア賞」受賞後、国際核不拡散・軍縮委員会委員などの多国間ガバナンス分野で活動。2009 年からはイェール大学グローバリゼーション研究センター所長を務めつつ、2013 年に The Elders に加入し、平和構築や核兵器廃絶・不拡散などにおいて国際的に活動し、声を上げ続けている。

デニ・ムクウェゲ/Denis Mukwege ノーベル平和賞受賞

コンゴ民主共和国で生まれ、フランスで医学を学んだ。産婦人科を専門としてブリュッセル自由大学にて博士号を取得。1999 年にパンジ病院を設立、20 年以上に渡り、紛争による性暴力被害者や重大な婦人科疾患を抱える女性たちの治療に携わる。2018 年「戦争や武力紛争の武器としての性的暴力 (sexual violence) の使用を終わらせるための努力」に対し、ノーベル平和賞が授与された。

谷本真邦事務局次長の司会で開会宣言、海江田万里事務総長が開会挨拶。海江田氏は The Elders の活動に敬意を表するとともに、日本が 20 年前に世界連邦国会決議を行なったことに触れ、現在それをバージョンさせた決議の手続きを進めており、同様の決議を世界各国で行なってほしいと述べた。

衛藤征士郎顧問（前会長）は The Elders の素晴らしい活動を日本にも広めていきたい旨の挨拶を行い、一般社団法人・世界連邦運動協会の大橋光夫会長からは The Elders の今日のスピーチを今後の世界連邦の活動に活かしていきたいという趣旨の挨拶があった。中川正春顧問(前事務総長)・西村康稔常任理事(元経済産業大臣)・斉藤鉄夫副会長(公明党代表)からも挨拶があった。

The Elders の 5 名からは日本への期待が多く語られた。「ロシアによるウクライナ侵攻でもインドとパキスタンの紛争でも気候変動でも国連が十分に力を発揮していない。アメリカは経済の面で多国間主義でなく、1 対 1 によるユニラテラルで交渉しようとしている。こうした情勢のもとで日本は他の国を集めて国際法遵守を訴えるべきである。その行動はグローバルサウスの支持を集めるであろう。」という趣旨であった。

「日本は武力行使が憲法上禁止されているが、その状況で世界平和への貢献が可能か」という問いには、「日本は倫理的な面で権威があり、また、寄付額も多い。ハイチ地震の時に最初にエンジニアを派遣したのも日本である。日本は信頼されており、平和のためにできることは多い。」との回答があった。

グローバルガバナンス推進委員会の長谷川祐弘座長(元国連事務総長特別代表)をモデレーターとしての意見交換に移った。いくつかの発言を以下に記す。

・被団協（日本原水爆被害者団体協議会）が昨年ノーベル平和賞を受賞したことは素晴らしいことである。The Elders の皆様と協力して核なき世界を創っていきたい。

・私の兄がコロナで亡くなり、パンデミック問題に関心を持っている。途上国には感染症へのケアが十分にできない国もあり、そうした国々への対策を共に考えていきたい。

・グローバル化には長所も短所もあり、グローバル化により 1 国の中で貧富の差が拡大する側面もある。そうした中でこそ、対話と信頼の拡充が必要である。

・本日の The Elders の皆様が述べたことは、党派を超えて全ての議員が共有し、取り組むことができるはずである。皆様が今まで行なってきた素晴らしい活動に改めて感謝したい。

今回 The Elders からのスピーカーが 5 人いて時間配分が心配だったが、各スピーチが簡潔かつ明瞭であり、多くの議員にマイクを回すことができた。また、かなりの割の議員が通訳を介さず英語で話していたのが印象的だった。

出席は以下の通りである（敬称略）。

自民：衆 西村康稔　立憲：衆 海江田万里・源馬謙太郎・桜井周・柴田勝之・森山浩行、参 羽田次郎　公明：衆 斉藤鉄夫　維新：衆 斎藤アレックス　国民：衆 浅野哲・深作ヘス　共産：参 紙智子　れいわ：衆 阪口直人　元職：衛藤征士郎・中川正春

＊今回、The Elders から随行合わせて 10 名以上来場があったことと会場の大きさとの関係で、秘書による代理出席をお断りし、議員本人出席を原則とした。

この会合の後、The Elders 一同と衛藤征士郎顧問・斉藤鉄夫副会長は総理官邸を訪れ、石破茂総理と面談した。(写真は政府提供)

（塩浜　修）

世界連邦日本国会委員会主催・日本未公開映画「Reagan」映写会開催

2025 年(令和 7 年)4 月 8 日(火)午後 4 時から衆議院第一議員会館国際会議室において、世界連邦日本国会委員会の主催による日本未公開映画「Reagan」の映写会が行われた。この映写会は、同会前会長の衛藤征士郎同会顧問の依頼で、製作総指揮者マーク・ジョセフ氏を招へいして実施されたものである。

まず世界連邦日本国会委員会の谷本真邦事務局次長より開会宣言および冒頭挨拶があった。谷本次長は「この映写会は、現在のアメリカ合衆国が共和党のトランプ政権であることから、レーガン元米国大統領の政治を再考し、世界的な自由と民主主義の意義を問い直す機会としたい」という旨を述べた。

次に衛藤征士郎顧問が挨拶に立ち、「冷戦時代において信念に基づいた指導を貫いたレーガン元大統領の姿勢は、現代における政治指導にも多くの示唆を与える」と述べた。さらに衆議院議員（立憲民主党）岡島一正氏も挨拶をし、「ＮＨＫ時代から製作総指揮のジョゼフ氏と親しかった。彼の渾身の作品であるから、ぜひ映画を見ていただきたい」と述べた。次いで大橋光夫世界連邦運動協会会長は「日本は世界でも珍しく国会の中に世界連邦の超党派委員会があり、国会決議も実現している。この映写会が多国間主義と民主的リーダーシップの価値を再認識する契機となることを願う。」と語った。

続いて元国連事務総長特別代表で世界連邦日本国会委員会有識者諮問機関の長谷川祐弘座長は、「国連改革やグローバルガバナンスに関する議論は重要な時期を迎えている。政治リーダーの倫理性を支える制度の在り方を探る必要がある。」と指摘した。

その後、製作総指揮のジョゼフ氏が登壇し、「自由と信念に基づいたリーダーシップ」の重要性を訴え、長期にわたる構想から本作の制作背景を説明し、レーガン大統領の人間的側面、国際政治における発信力を再認識してほしいと語った。

約 2 時間にわたって上映された映画は、レーガン氏が政治家になる前から物語が始まり、大統領に当選、暗殺未遂、ソ連の崩壊、晩年など、長い人生を振り返ったものであった。今後日本でも版権を販売する可能性もあり、詳細な内容については日本公開を待ちたいと思う。

映写終了後、海江田万里事務総長は「映画『Reagan』の上映を通じ現代日本においても言葉で伝える政治家としての在り方を見直す必要性がある。レーガン大統領の演説に見られる信念と希望を日本の政治に活かしたい。」と述べた。

映画上映後に残った政治家ら出席者と製作者の間で、質疑応答や意見交換が行われた。国際政治における倫理観、言葉の力、指導者像についての関心が高かった。

最後に谷本事務局次長より、世界平和と民主主義の意義について改めて考える機会となったことについて、製作者と参加者に謝辞が述べられ閉会した。閉会後も積極的にジョゼフ氏らと記念写真をとったり名刺交換をしたりして、話はつきなかった。

谷本事務局次長のいうように、現在の国際社会はトランプ政権によって大きな影響を受けている。レーガン大統領のときもソ連の崩壊という大きな地殻変動が起こった。現在の状況をネガティブにとらえるだけでなく、改革の機会にするというポジティブな捉え方をして、世界連邦の実現に結びつけていきたい。

※以下は出席者一覧である（順不同・敬称略　衆議院議長額賀福志郎会長等代理出席、随行者は省略させて頂く）

自由民主党：(衆) 國場幸之助、冨樫博之／（参）青山繁晴、中曽根弘文、山本順三

立憲民主党：(衆) 岡島一正、大西健介、川原田英世、佐藤公治、篠原孝、松田功、屋良朝博／（参）羽田次郎

参政党：(参) 神谷宗幣

無所属：長浜博行（参議院副議長）、浜田聡（政治団体ＮＨＫから国民を守る党）、（参）三上えり
元職：衛藤征士郎（当会顧問）
大橋光夫　（一社）世界連邦運動協会会長
長谷川祐弘 国会有識者諮問機関グローバルガバナンス推進委員会座長・国連事務総長特別代表経験者
谷本真邦　世界連邦日本国会委員会事務局次長・（一社）世界連邦運動協会国際委員長
世界連邦青年会議会員など

（世界連邦青年会議 共同学生副長　増子 紗英）

国際社会の「気候変動」への取り組み
― 国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）について ―

近年における国際社会の「気候変動」への取り組みを振り返りたいと思います。

その中心的な活動が「国連気候変動枠組条約締約国会議」、通称「COP」です。Conference of the Parties の略称で「締約国会議」と言われています。 COP には「国連気候変動枠組条約」の締約を交わした国と地域が出席します。 国連気候変動枠組条約、通称「UNFCCC」、United Nations Framework Convention on Climate Change の略称で 1992 年に採択、1994 年に発効した条約です。二酸化炭素やメタンなど温室効果ガスの濃度を安定化することを目的として、1995 年から毎年開催されています。

2024 年 11 月時点、196 の国と地域が参加する気候変動問題における最大の国際会議となりました。毎年 11 月から 12 月上旬頃にかけて約 2 週間に渡り開催され、様々なイベントが実施されます。参加する関係者は、各国首相と閣僚級が参加する会議、科学者や NGO、経済界のリーダー、市民社会のリーダーなどです。近年は「非国家アクター」の占める比重が増加しています。

COP では、気候変動に関する問題の対話、各国の取り組みの報告・評価、気候変動対策に関する多国間での合意形成を行います。各国の実情に照らし合わせながらも、問題解決に向けた実効性のある取り組みが試行されています。

原点は 1992 年にブラジルで開催された「地球サミット」です。正式名は「環境と開発に関する国際連合会議」（UNCED）で「国連会議」として実施されました。ここで「国連気候変動枠組条約」（UNFCCC）が作成され、「大気中の温室効果ガス濃度を安定させて、人間活動による気候システムへの危険な干渉を防ぐ」ことが合意されて翌々年に発効。さらにその翌年 COP が初めて開催されました。1997 年の COP３では、温室効果ガス削減にむけて「具体的な削減目標」を掲げた世界初の取り決め「京都議定書」が採択されています。

2015 年の COP21 において、「途上国も含めたすべての加盟国が世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2 度より低く、1.5 度に抑えるよう努力する」ことを合意した「パリ協定」が採択。 2021 年の COP26 では「1.5 度目標が事実上の目標」となり、「各国の石炭火力発電の段階的な削減」や「NDC（2030 年の国別排出目標）の再検討」、「発展途上国のための気候ファイナンスへの取り組み」などが盛り込まれた「グラスゴー気候合意」が採択。

2022 年、エジプトで開催された COP27 では、パリ協定、グラスゴー気候合意を踏襲しながら、気候変動対策を強化する「シャルム・エル・シェイク実施計画」が採択。気候災害で影響を受けた国々への資金提供を目的とする 「ロス＆ダメージ 」（損失と損害）資金支援基金の設立も決定されました。

2023 年、UAE で開催された COP28 では、パリ協定の目的達成に向けた世界全体の進捗を評価する「グローバル・ストックテイク」（GST）に関する決定がなされました。また、「ロス＆ダメージ」（気候変動の悪影響に伴う損失と損害）に対応するための基金を含む新たな資金措置として「6 億 6,100 万米ドル」の資金拠出も決定。基金（名称は今後決定される）は、気候変動の影響に特に脆弱な途上国を支援の対象とし、「世界銀行」のもとに設置されます。日本は基金立ち上げ経費として「1000 万米ドル」の約束を表明。

2024 年、アゼルバイジャンで開催された COP29 では、気候資金に関する「新規合同数値目標」(NCQG)、「緩和作業計画」(MWP)、「適応に関する世界全体の目標」(GGA) の運用に関する決定が採択。これらに加え、「パリ協定第 6 条」に関する決定も採択。新規合同数値目標では「2035 年までに少なくとも年間 3,000 億ドル」の途上国支援目標が決定。 なお、この COP での政策決定は、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）による「科学的知見の提供」による施策と分業関係にあります。

2023 年 3 月に発表された IPCC による「第六次評価報告書」では「人間活動による気候変動は疑う余地がない」という結論が導き出されました。同報告書は気候変動への「適応」と「緩和策」についての具体的な情報も提供しています。

本年はパリ協定誕生から 10 年の節目であり、COP 開催の裏付けとなる国連気候変動枠組み条約などの署名が行われた 1992 年の地球サミット開催の地ブラジルでの COP30 開催を予定しています。一方で、第二次トランプ政権下の米国が気候変動の国際ルールパリ協定から離脱する影響が世界中から注目される年となるでしょう。

（世界連邦 21 世紀フォーラム　松田　創）

アウシュビッツを訪れて
強制収容所解放 80 年

「生きている間にどうしてもアウシュビッツに行きたい。一緒に行ってほしい」という、長年の友人からの依頼でこの旅は始まった。世界中から年間約 170 万もの（2019 年は過去最多の 230 万人を記録）見学者がやってくるアウシュビッツ＝ビルケナウ博物館（以下アウシュビッツ博物館）を戦後 80 年である今年の 5 月に訪れた。

ポーランドの首都ワルシャワから高速鉄道で南部の都市クラクフへ向かう。クラクフはかつて 500 年以上にわたってポーランド王国の首都として栄えた街。旧市街地区はユネスコ世界遺産の登録がされており、旧ユダヤ人街を歩くと戦時下の情景が伝わってくる。このクラクフから列車で 1 時間半のところにオシフィエンチムという街があり、そこにアウシュビッツ博物館がある。

ヨーロッパ全土からアウシュビッツに移送された

【アウシュビッツ概要】

アウシュビッツはドイツ人が設置した最大規模の強制収容所。火葬場、絶滅収容所、強制労働収容所がある強制収容所の集合体で、アウシュビッツ第 1 強制収容所、アウシュビッツ第 2 強制収容所(ビルケナウ)、およびアウシュビッツ第 3 強制収容所で構成されていた。

アウシュビッツ＝ビルケナウ強制収容所には少なくとも 130 万人の人々が連行され、そのうち、およそ 100 万人のユダヤ人、7 万人のポーランド人、2 万 1 千人のロマ人（インドを起源とする少数民族)、1 万 4 千人のソ連軍捕虜、その他 1 万人以上の被収容者が亡くなった。1945 年 1 月 27 日、-20℃の中、子ども 300 人を含むおよそ 7,500 人の人々がソ連軍によって解放された。

収容所は、ナチス・ドイツの占領下となっていたヨーロッパのほぼ真ん中に位置し、交通の便もよいことにより、さらに拡大され、ほとんど全てのヨーロッパ各地から人々が連行されることになった。

【アウシュビッツ博物館】

博物館の設立は 1947 年。2 カ所の元収容所から成り立っている。

収容所の見学は 1，2 時間で終るだろうと思っていたが、実際アウシュビッツの二つの収容所の見学に要した時間は 4 時間半だった。とにかく広い、広大なのだ。アウシュビッツの敷地自体は東京ドーム 4 個分、第 2 収容

所のビルケナウはその 10 倍の広さである。
　受付などを行う建物から第 1 収容所跡へとつながる通路では、世界中からの老若男女の見学者でいっぱいだった。アジアからの見学者の割合は少なく、ヨーロッパの各地から来る方々が多いようである。イスラエルの旗をもった見学者、学生たちの集団もたくさん参加していた。

　アウシュビッツには独特の気がながれていた。5 月の陽光はやわらかくまわりはポプラ並木が続いており、緑も多く、どこかの大学のキャンパスと見紛うくらいであった。
　収容所入口のアーチには、「ARBEIT MACHT FREI（働けば自由になる）」という標語が記されており、強制収容所を象徴するスポットの一つにもなっている。あたかも勤勉に働けば解放されるような印象を持たせながら、この収容所の実態は正反対の、常に死と隣り合わせの絶望的なものだった。

◇　アウシュビッツ収容所
　1940 年に開所。毒ガス・チクロン B を利用した最初の殺害実験、初移送からのユダヤ人の大量虐殺、最初の残虐な人体実験、大多数の銃殺がここで行われた。
　収容所内の展示エリア：収容された人々の生活や強制労働の過酷さを伝える展示が目を引く。ここには実際に使用された服や所持品、さらには収容された人々の写真が展示されており、彼らの個々の物語を視覚的に感じ取ることができる。特に、展示室に並べられた靴や眼鏡、ぼう大な量の髪の毛といった遺品は、収容された人々の生きていた証であり、これらの物品は単なる歴史の一部ではなく、個々の命の重みを思い起こさせるものだった。

◇　ビルケナウ第 2 強制収容所
　第 1 収容所の見学を終えてから、無料のシャトルバスで 3km ほど離れたビルケナウ収容所へと向かう。門の手前でバスを降りると、施設の外から中まで、収容者の輸送列車用の線路が伸びているのが見える。

ガス室と焼却炉の跡

1944 年春に作られたガス室の手前まで続く引き込み線は、輸送から虐殺までのプロセスを簡略化させた。ビルケナウは収容所としての機能をより強く感じさせる場所であり、広大な敷地に広がるバラックや焼却炉がその凄惨さを物語る。特に焼却炉の跡地は、ナチスの非人道的行為がいかに組織的に行われたかを示す重要な証拠であり、歴史の重みを直視させる。ここでは、犠牲者の名前が刻まれたメモリアルが設置されているので、彼らの記憶を風化させないための努力が感じられる。
　ビルケナウの収容バラックのほとんどは戦後、ポーランドによって資材の確保のため解体された。その奥には、ガス室・焼却炉の瓦礫が残る。一部はナチ・ドイツによって証拠隠滅のために破壊され、一部はそこで働かされていたユダヤ人が暴動を起こした際に破壊された。この場所で 100 万人近くの人々が殺害された。

最後に
　ここは、墓石のないお墓だとの説明があり、被害者・遺族にとって巡礼の場所となっている。多くの人が犠牲になった「死の壁」のまわりには花が添えられていた。ここで亡くなられた全ての方々の魂が穏やかで平和でありますようにと、祈らずにはいられなかった。

　本来、ユダヤ人とは、ユダヤ教を信じる人々。しかし、ナチス・ドイツは、祖父母に 3 人または 4 人のユダヤ教徒をもつ者を「ユダヤ人」と定義した。これにより、ユダヤ教に直接つながりのない人々も迫害の対象となった。人種としてユダヤ人を区別できる科学的根拠は存在しなかったにもかかわらず、あたかも人種であるかのように扱ったのだ。
　多くの仲間が連行されている収容所では、一体なにが行われているのか、ヨーロッパ各国に住むユダヤ人の間で噂になっていたことだろう。それなのに、なぜユダヤ人は逃げなかったのか。当時、彼らを難民として受け入れる国がなかったからだということだった。そのことは、現在の日本の難民受け入れの状況に照らして私たちとっても大きな課題であり、世界に向けて狭き門を広げてほしいと訴えているように思われた。
　人類が再び過ちをくりかえさないように、その記憶を継承するこのアウシュビッツ博物館。ここではポ

ーランド国内や近隣国から校外学習で訪れる生徒・学生も多く、子どもたちは博物館職員によるセミナーや学習キャンプにも参加する。そこで子どもたちは「あなたがその時代に生きていたらどうしますか？」と問われる。子どもたちから「何もできなかったと思う」という声があがると、「それが傍観者であり、こうしたことが起こった原因の一つだ」と厳しい言葉を突きつけられるという。自分の答えが大虐殺の原因の一つだとはっきりと言われる経験は、子どもたちにとって相当重く心に残るだろう。日本でそこまで厳しく現実を突きつけられる機会はあっただろうか、自分に問いを向けられるであろうかと、自身が受けた教育や歴史観を考えさせられた。

これまでの歴史を振り返ると、社会不安と経済危機は、差別や偏見を増長する排他性へと幾度となく繋がっている。民族や宗教の違いが原因となる国家間の争いや、世界において自国の影響力を維持、拡大したいという各国の願望が、未だに戦争と人間の殺し合いを継続させている。1 万発を超える核弾頭の脅威、国境線の内外で命の価値に差をつける社会に生きる人類は、アウシュビッツに代表される「負の遺産」と、いまこそ真摯に向き合う必要があるように思う。

アウシュビッツの生還者の方々だけでなく、原爆によるヒバクシャの方々の体験を、私たちはどの程度「理解」することができるだろうか。私たち戦後世代は、世界中のいかなる人々も二度とそのような目に合わないようにするにはどうしたらよいかということを、少なくとも「考えること」はできる。「私たちはどういう方向に歩みを進めたらよいのか」を今あらためて考えるとき、過去の歴史はその大切な判断材料になるであろう。

ナチス・ドイツによるユダヤ人・性的少数者・心身障がい者などに対する迫害は、ごく普通の人々の根底にある偏見や差別に根差しており、反ユダヤ主義とアーリア人至上主義を掲げるナチス・ヒトラーは、第一次世界大戦の敗戦国であるドイツの国民の社会不安や経済危機に乗じて勢力を拡大したことを、私たちは認識するべきである。このようなことはこれからも起こりえるし、自分が被害者にも加害者にもなりえるのだということを思い知らされた。しかもそのきっかけは私たちの身のまわりにいくらでも存在する。外見を見て国や人々を評価するというようなことをしてしまいがちであり、日本の難民の受け入れの低さなども、ナチスの悪行につながる可能性を十分に含んでいる。人種や民族といった、人間によってつくられた概念をもう一度よく考えなおしてみたい。

（川口　美貴）

『見て、聞いて、体験 協同組合フェスティバル』を開催

国連の定めた「国際協同組合年」の 7 月 5 日（第 1 土曜日 国際協同組合デー）に『見て、聞いて、体験 協同組合フェスティバル』が開催されます。

協同組合や SDGs について、“見て、聞いて、体験”できる様々な協同組合のブース出展や JA ファーマーズマーケットによる新鮮な農産物の販売、スペシャルゲストによるステージ、シンポジウム、スタンプラリーなど、誰でも楽しんで学べる、そして未来のヒントが見つかる企画が盛りだくさんです。

当日は賀川豊彦（元世界連邦建設同盟副総裁）についての講演を公益財団法人 賀川事業団雲柱社理事長・館長の石部公男氏が登壇され、北欧における SDGs の取り組みなどを中心に賀川豊彦と北欧との関連性を講演いただく予定です。

働きやすい環境づくりや社会的包摂、地域福祉などにご関心をお持ちの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

【開催概要】

１．日時：2025 年 7 月 5 日（土）10 時～16 時（予定）
２．会場：東京国際フォーラム（JR・東京メトロ有楽町駅下車）ホール E2、ホール D1
３．入場料：無料
４．主催：2025 国際協同組合年全国実行委員会（事務局：日本協同組合連携機構）

＊詳細は下記よりご確認ください。
インスタグラム　@coops_100stories　/ ウェブサイト https://www.japan.coop/iyc2025/coopfes.php

世界連邦関係各団体の動き

・5 月 23 日　2025 年度世界連邦推進日本協議会理事会
　　一般社団法人世界連邦運動協会第 1 回理事会
・5 月 25 日　第 41 回世界平和祈願祭（世界連邦運動協会神戸／世界連邦神戸婦人の会 主催）
・5 月 27 日　世界連邦平和を考えるフォーラム学習会（オンライン）
・6 月 5 日　世界連邦宣言自治体全国協議会令和七年度総会
・6 月 21 日　一般社団法人世界連邦運動協会第 80 回全国定例総会
・6 月 24 日　日本インド ハイヤー・エデュケーション・フォーラム in 国会
　　（世界連邦日本国会委員会主催）
・6 月 29 日　グローバル連帯税フォーラム総会
・7 月 1 日　世界連邦平和を考えるフォーラム学習会（オンライン）
・7 月 5 日　協同組合フェスティバル
・7 月 10 日　三鷹市世界連邦運動協会総会
・7 月 29 日　第九回全国推進大会（世界連邦文化教育推進協議会）

編集後記

☆アウシュビッツは未来につながる何かを発信している「場」なのだと感じた。歴史から学び、多様性を尊重し、偏見や差別に立ち向かい、未来をより良くするために行動を起こす。世界連邦運動に携わり平和を紡いでいければと思う。あの場に導いてくれた友人に感謝したい。（川口）

☆10 年以上前、「連帯税・軍縮・環境などの団体と連携するべきだと思って、それらの団体の行事になるべく参加しているが、一人では回り切れない。また、行事が私の本業の学習塾の授業時間と重なることが多く、そう何度も本業を休めない。」と木戸常務理事（当時）に相談した。その結果、核廃絶については野田武志さん、連帯税については谷本真邦さん、そして環境問題については松田創さんが担当することになった。今回のニューズレターで松田さんによる環境問題の記事を読み、適任であると改めて確信した。（塩浜）

☆1945 年 7 月 12 日、0 歳のときに米軍 B29 爆撃編隊による敦賀空襲を「体験」した私は、物心つく頃から母から当時の思い出を幾度も聞き、高校生の頃からは戦争と平和に関する見聞を書物・新聞・映画・テレビなどを通して二次体験を重ねたことが世界連邦運動への参加に繋がった。2025 年 4 月 22 日、生まれ故郷の敦賀に、前年開通した金沢・敦賀間の北陸新幹線に初めて乗車して 1 泊観光旅行。敦賀訪問は、就職後に母方の祖父母の墓参目的で行なったのが最初、二度目は 1985 年の気比史学会主催講演、三度目も 1994 年の同主催講演、四度目は 2002 年の敦賀短期大学地域交流センター主催講演が目的で、今回は五度目。母が生後 100 日目の私を背負い、5 歳の姉の手を引いて逃げ込んだ気比神宮も本殿を含む境域内の諸建造物と共に消失、母たちは気比神宮付近の水田に移動して命拾い。三度目の敦賀訪問のときは、再建された本殿の一部などを見学しただけであったが、今回は、見事に整備された境内全域を見て回った。戦争末期・終戦直後の食糧難による栄養失調の乳飲み子であったが、本年 4 月 4 日に傘寿の誕生日を迎えてからの生地再訪に感慨を覚えた。しかし、現在、ロシアによるウクライナ攻撃や、イスラエルによるパレスチナ攻撃が一向に収まらず、兵士はもちろんのこと、民間人の死傷者が増え続けていることに思いを馳せながらの旅でもあった。ところで、戦後の米国外交に大きな影響を与えた神学者ニーバーは、欧州がナチズムによって危機に瀕したのはリベラルな民主主義諸国が「愚かな光の子」だったからだ、と指摘した。かつてナチズムが欧州を席巻できたのは、民主主義国が自らの内に潜む利己心の力を見くびっていたのに対し、「光の子」の国々がいくら道徳を訴えても腹の底には私的利益の追求を隠していることを、「賢い闇の子」は見抜き、「光の子」の国々をうまく操ったからだ、とニーバーはいう。このことは、トランプ氏が米国大統領に返り咲くことができたことにも当てはまる。（平口）

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に『入会申し込み』と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円　維持会員年額10,000円　賛助会員年額15,000円

WORLD FEDERALIST MOVEMENT OF JAPAN
世界連邦運動協会 本部事務局
〒105-0003 東京都港区西新橋2-15-17 リッツ虎ノ門4F-BC
電話（03）6438-9442　FAX（03）6438-9443
E-mail info@wfmjapan.org